

第117回 霧が峰ハイキング2

礒 部 進

(東邦化成株式会社 第5支部)

令和7年9月27日(土)晴

令和7年9月28日(日)晴

午前6時19分、地下鉄乗車中に弊社高橋からのメールに気が付いた。高熱のため、欠席するとのことだった。新宿に向かう電車の中で、特急券のキャンセル処理をした。この為、今回の参加者は車組の原夫妻と電車組の山本さん、石井さん、大井さんと私の6名となった。

曇天の中、7時丁度のあずさ1号は定時に新宿駅を滑り出し、上諏訪を目指した。前回は二日とも雨にたたられたが、今回は大丈夫そうだ。まだ山の上の方は雲を被っているが、甲府盆地に入ると青空が見え出した。

8月のハイキングは涼しいところと言う希望から、十年振りの霧が峰となった。しかし、予約できたのは、区立の小中学校の使用が一段落する9月の終わりになってしまった。7月はニッコウキスゲが、8月も様々な花が咲き乱れるが、9月の終わり頃は何が咲いているのか見当が付かなかった。

上諏訪駅の西口にあるアルピコ交通のバス停に行くには、東口改札から出て、東西自由通路を利用しなければならない。二本ある跨線橋は東口に向いていると言う不便な駅だ。新宿で山本さん、上諏訪駅構内で石井さんと大井さんに合流できた。バスは満員で座れないと思ったが、臨時でバスを増便してくれたおかげで、4名全員が座れた。

バス2台は予定通りに強清水に到着(10:09)。強清水から徒歩数分で、台東区立霧が峰学園に到着、原夫妻と合流した。不要な荷物を置き、ハイキングに行かない原ご主人とは学園で別れ、予定より早い10時35分に学園を出発した。

雲は多いが晴天の中、学園から、留塚(1,698m)経由で沢渡(1,650m)へ向った。咲いている花は無かった。沢渡から、車山湿原に向かう辺りから、ススキの原になり、トリカブトやリンドウが見え出した。湿原は乾いた感じで、以前、モウセンゴケが群生していた場所にはモウセンゴケは見えなかった。車山から来る道と合流し、蝶々深山(1,836m)に向かった。

蝶々深山で小休止の後、物見山(1,792m)へ向かい、昼食を摂った。いつもの紅茶を淹れ、石井さんの缶ビールをいただき、約40分休憩した。物見山は車山、蝶々深山、物見岩、八島に向かうメインルートから少し外れているため、滅多に人と会わない。にもかかわらず、今回は沢渡から直登して来た女性二人組と、更に女性一人と遭遇した。

物見山から40分掛けて、ススキだらけの道を沢渡に下り(13:51)、トイレのある御射山に向かった。御射山には小さな祠の諏訪神社（御柱もちちゃんと4本ある）があり、皆で参拝した。御射山ヒュッテ裏のトイレで用を足し(14:29)、鎌倉時代の流鏑馬等の競技場観覧席遺跡の横を通り、ビーナスラインの下を小さなトンネルで抜け(14:42)、車山湿原を水源とする沢を渡り(14:47)、留塚直下のポイントに到着した(14:52)。これより、本日最後の登りだ。留塚に到着(15:14)、直ぐに学園裏に下り(15:14)、グラウンドを横切り、学園に帰着した(15:31)。

学園に戻って、温泉に浸かった後、6名で馬刺し中心の追加料理と7人分の夕食をビールと日本酒で堪能した。部屋に戻ってから二次会、寝言やいびきの合唱の中、就寝した。

翌朝、6時過ぎに起床、霧が立ち込める中、布団などを畳み、シーツ、枕カバー、掛布団カバー、バスタオルを分別して返却。7時半に朝食を摂った。

霧も晴れ、必要な荷物以外を学園に置き、支払いを済ませてから出発した(8:30)。最短ルートの留塚、御射山を経由して、八島、鷲ヶ峰を目指した。前回と違い、雲は多いがお天気だ。

御射山ヒュッテ前(9:27)から木道を飛ばし、10時に八島園地に到着、直ぐに鷲ヶ峰の登りにかかった。ここではトリカブトに加え、僅かにノアザミ、松虫草が咲いていた。急な登りの尾根筋に出た直後、膝の調子が悪い山本さんには、その場でお待ちいただき、4人で鷲ヶ峰に向かった。西斜面に見事なトリカブトの群落を見ながら、11時に鷲ヶ峰(1,798.3m)に到着した。今回は諏訪湖も一望できた。下りは、元気になった山本さんと合流し、50分程で八島園地に到着した(11:50)。

今回は八島からバスで強清水に戻ることにしていたので、大井さんにバスの時間を確認して貰い、余裕をもって、紅茶を淹れ、石井さんからもビールをいただいた。12時33分発のバスに乗り、強清水に到着(12:44)。強清水の食堂で、宿代の清算を済ませ、原夫人を迎えに来た原さんご夫婦と別れた。我々以外一名の客しかない食堂で昼食後、学園に戻った。今回は靴を洗うことも無く、荷物を纏め、学園を後にした。

強清水発14時19分発のバスで上諏訪に向かった。緑窓口の無い上諏訪駅では、予定より早い時間の特急に、夫々がネットや多機能券売機で慌ただしく変更し、席を確保した為、打上げもしないで、おとなしく帰ることとなった。自分は売店で本醸造の真澄 300mlを購入し、構内の霧ヶ峰水系の水をペットボトルに入替て乗車した。打上げもできず、一人だけの席で寂しい道中となった。